



The glorious communication method

～川崎の強さの秘訣～



【動機】

私たちは女子サッカー部に所属しているが、チームとして試合の中でパスを回すことが得意ではない。そこで、パスサッカーのイメージのある川崎フロンターレのパスについて分析してみたいと思った。また、強いチームのパス回しから学ぶことができるのではないかと考えた。

【現状】

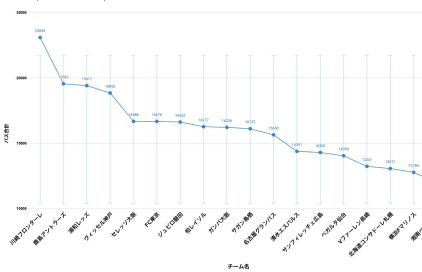
川崎フロンターレはJ1で3位以内に入ることが多く(図4)、パスの多いチームという印象がある。その川崎フロンターレのパスにはどんな特徴があるのか。またパスは川崎フロンターレの強さに関係しているのか。パスを中心に強さの秘訣をさぐっていき。

分析1 川崎フロンターレのパスの特長

【前提の確認】

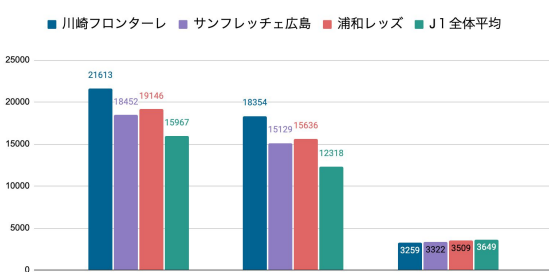
図1で2018年の全J1全チームのパス数の標準偏差を求めた(図1で示した範囲は平均値±標準偏差×2を表す)が、川崎フロンターレは唯一±標準偏差の2倍から飛び出しており、川崎フロンターレのパス数の飛び抜けぶりがわかる。また、図2でパスの合計数の多い3チームと比較しても、川崎フロンターレのパスの多さがわかる。

図1 2018年J1各チームパスの合計と平均値との解離比較
範囲は平均値±標準偏差×2



標準偏差 :2753.7 平均値:16056

図2 パス合計平均 2013-2018
範囲は平均値±標準偏差×2



【仮説1-①】【仮説1-②】では川崎のパスが多いことから、①パスのどのパスの種類もパス数が多いのではないが、②パスの成功率が高いのではないが。この2つの仮説から川崎フロンターレのパスの特徴を分析する。

【仮説1-①】 川崎フロンターレはパスの数が多いことが図1, 2からわかる。パス数の多い川崎フロンターレはどの種類のパス数も他チームより多いのではないが。

【分析1-①】 川崎フロンターレ、浦和レッズ、サンフレッチェ広島は3チーム(+ J1平均)をパスに関連しているデータ(フリーキック、コーナーキックは除く。フリーキック、コーナーキックは除く。長さ、エリア、タッチ数、クロス、スルーパス数)と比較する。グラフは2013年から2018年のチームの平均のデータを比較した。

図3 J1パス合計上位5位 2013-2018

順位	チーム	パス合計
1	川崎フロンターレ	2112
2	浦和レッズ	1898
3	サンフレッチェ広島	1889
4	名古屋グランパス	1775
5	横浜F・マリノス	1741

図4 J1順位上位5位 2013-2018

順位	チーム	順位	チーム	順位	チーム
1	川崎フロンターレ	1	浦和レッズ	1	サンフレッチェ広島
2	浦和レッズ	2	名古屋グランパス	2	横浜F・マリノス
3	サンフレッチェ広島	3	横浜F・マリノス	3	名古屋グランパス
4	横浜F・マリノス	4	名古屋グランパス	4	横浜F・マリノス
5	名古屋グランパス	5	横浜F・マリノス	5	名古屋グランパス

今回、比較対象のサンフレッチェ広島と浦和レッズはJ1に6年間連続残留しており、J1常連チームである。また、過去5年のパス合計数の上位5位に川崎フロンターレとこの2チームが入っている年があったため比較してみることにした。(図3、4)

図5 ショートパス、ミドルパス、ロングパス数 平均

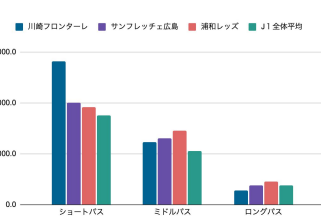


図6 AT、MT、DTへのパス数 平均

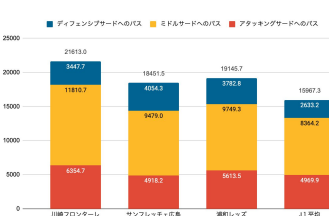


図7 AT、MT、DTでのパス数 平均

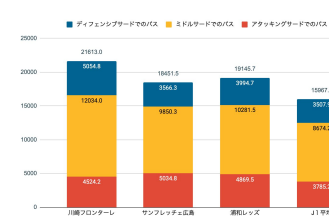


図8 前方パス、横パス、後方パス数 平均

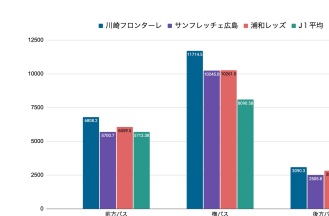


図9 クロス合計、右足クロス、左足クロスの数 平均

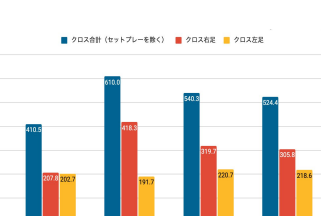


図10 ワンタッチクロス、ツータッチ以上クロス数 平均

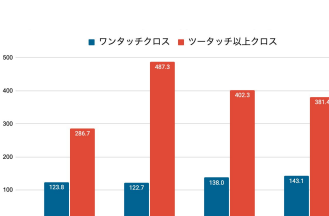


図11 ワンタッチパス、ツータッチ以上パス数 平均

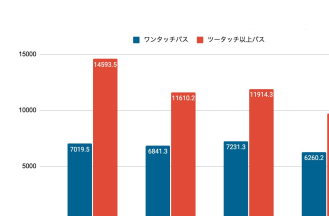
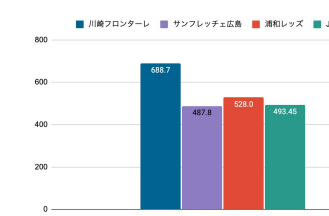


図12 スルーパス数 合計 平均



【考察1-①】

→川崎フロンターレのパス数の多さは種類に関係なく目立っていた。
特に図5、6、7、8、11、12からショートパス、ATへのパス、MTへのパス、ATでのパス、MTでのパス、横パス、ツータッチパス、スルーパスのこれら全てでは、圧倒的に川崎フロンターレが他チームの数を上回っていることがわかる。全体を通してみても、差の大小はあったが、J1平均よりも多くなっている値がほとんどであった。例外として、J1平均よりも少なかったのは、図5、9、10のロングパス、クロス合計(左足、右足クロスを含む)、ワンタッチクロス、ツータッチ以上クロス4項目であった。
この分析で、川崎フロンターレのパスは、パス数が全体的に多い中でも、ショートパス、AT、MTでのパス、AT、MTへのパス、横パス、スルーパスが他のJ1チームと比較しても特に多く、特徴的であることがわかった。ATやMTで多くのパスを回していることから、川崎フロンターレはかなり攻撃的なパス回しをしていると考えられる。

分析2 川崎フロンターレのパスから強さに迫る

川崎フロンターレのパスの特徴が分析1でわかった。次の【仮説2-①】【仮説2-②】では川崎フロンターレのパスとチームとしての強さを①パスと強さの関連があるのではないが、②攻撃面でパスが生かされているのではないが、から分析する。

【仮説2-①】 パスの多さは強さと関係があるのではないが。

【分析2-①】 J1の過去6年(2013～2018)の強さの指標(ラストパス、シュート数、ゴール数)とパス合計数の相関を調べる。

図27 ゴール数とパス合計数の相関

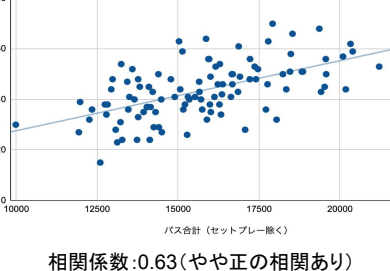


図28 ラストパス数とパス合計の相関

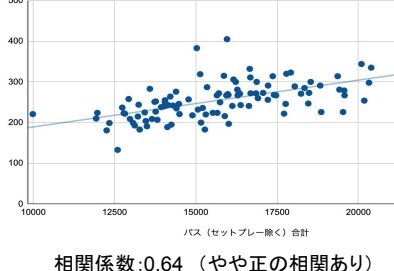
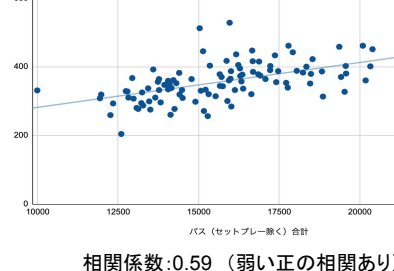


図29 シュート数とパス合計の相関



【仮説2-②】 川崎フロンターレのパスは攻撃面で川崎フロンターレのパスが生かされているのではないが。

【分析2-②】 得点につながるパス(=アシスト、ラストパス)を3チーム比較から分析する。2013年から2018年のデータの平均を使って比較した。

図30 種類別アシスト 平均

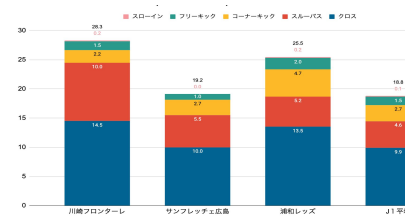
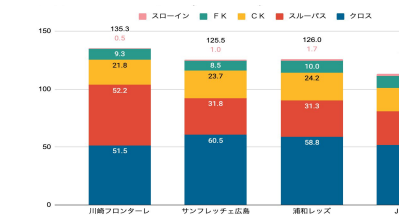


図31 種類別ラストパス 平均



【考察2-①②】

→①図27、28、29の3つの散布図からパス合計とゴール、パス合計とラストパスでそれぞれやや正の相関が見られ、強さと関わっていることが言える。また、相関係数から、シュートも全くパスと関わっていないとは言えない。つまり、パスの数が多くなるとその3つの値も増えるということはいくらかは正しく、パスを回すことができれば技術を持つ川崎フロンターレは、チャンスメイクをより多くすることができるといえることではないか。
②図30、31からパスと強さには関係があると考えられる。
③図30、31から川崎フロンターレはパスの中で得点につながるラストパスやアシストにおいてスルーパスが特に多いという特徴もあることがわかった。スルーパスをしっかりと得点につなげていることから、攻撃においてパスが活かされている。しかし、パスを回しているだけでは得点も決まらず、試合に勝つことはできない。ラストパスを出している選手、ゴールを決めている選手が川崎フロンターレの強さのカギなのではないか。

【結果と提案】

川崎フロンターレのパスの特徴は、単にパスが多いサッカーをしているのではなく、チームとしてパスの精度や技術力の高さがあるからこそ、敵陣でもパスを細かくつないでいるパスサッカーができるということであった。パスの中で得点につながるラストパスではスルーパスを多用し、チャンスを作り出していた。川崎フロンターレの特徴を形作っていた選手としてまず上げるべきは中村憲剛選手だろう。ただ、川崎フロンターレのチームとして平均的にパスの成功率が高いことや、パスの多さも飛び抜けていることからチームとしてパスサッカーが徹底されているチームである。
川崎フロンターレのサッカーのプレースタイルはかなり高度な技術をとすると考えられるため、簡単ではなく、他のチームからすぐには真似されづらい特徴であると思う。このまま、スルーパスや敵陣でのパス回しを活かし、勝利を重ねて欲しい。また、川崎フロンターレがもっとと高みを目指すなら、小林悠選手や、大久保嘉人選手などより多くの決定力のある選手を育てたり、サンフレッチェ広島の選手のような決定力のある選手(図40,41)を補強してみたりする良いのではないだろうか。今回比較対象として提示していたサンフレッチェ広島がもっと強みを活かすとするれば、パスの多さの割にパスが多いことから、ATサードでのパスへの意識を高めるより良いのではないが。浦和レッズが強みを活かすとするれば、浦和レッズは全体的にデータを見て、バランスの取れたパスの多い印象だった。何か一つでもパスの多いチームとしての強みを見出せるとより良いのではないか。

【仮説1-②】 川崎フロンターレは安定して高いパス数を毎年保っていることが図2よりわかることから、川崎フロンターレのパスの成功率が他のチームに比べて高いのではないが。

【分析1-②】 分析①と同様に川崎フロンターレ、浦和レッズ、サンフレッチェ広島の3チーム(+ J1平均)のデータをパスに関連するデータの成功率(フリーキック、コーナーキックは除く。長さ、エリア、タッチ数、クロス、スルーパス)を比較する。2013年から2018年のデータの平均で比較した。

図13 ショートパス、ミドルパス、ロングパス成功率 平均

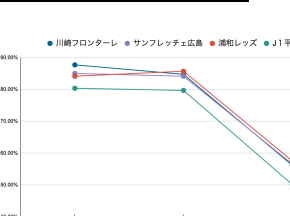


図14 AT、MT、DTへのパスの成功率 平均

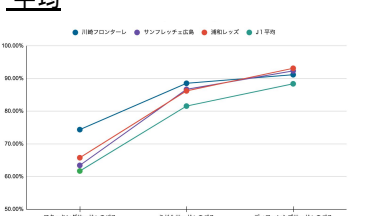


図15 AT、MT、DTでのパスの成功率 平均

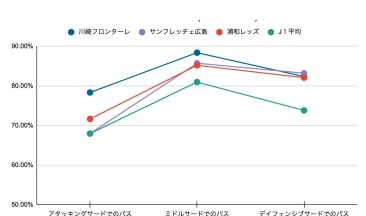


図16 前方パス、横パス、後方パス成功率 平均

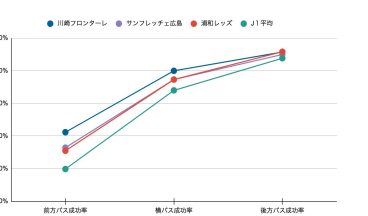


図17 ワンタッチパス、ツータッチ以上パス成功率 平均

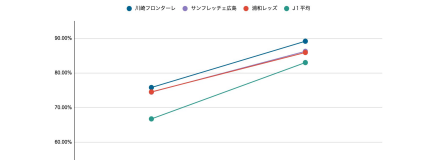
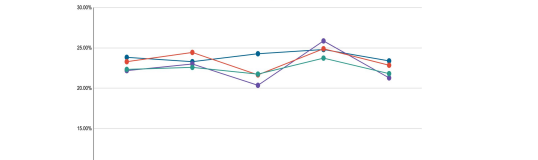


図18 スルーパスとパス合計の成功率 平均



図19 クロス合計、右足クロス、左足クロス、ワンタッチクロス、ツータッチ以上クロス成功率 平均



【考察1-②】

→川崎フロンターレは全てのパスの成功率のデータにおいて、J1平均を上回っていた。
また、サンフレッチェ広島と、浦和レッズと比較しても、十分川崎フロンターレのパスの成功率は高いと言える。図13、14、15、16、17、18を見ると、グラフの全全ての成功率が浦和レッズとサンフレッチェ広島よりも高いわけではない。ところが考察①-1でパス数が多い種類のショートパス、前方パス、横パス、ツータッチ以上パス数、スルーパス、ATでのパス、ATへのパスの成功率は高くなっていることがわかる。また、図14、15、19からわかるように、特に、AT、MTでのパスの成功率、AT、MTへのパスの成功率、左足クロスの成功率が、浦和レッズ、サンフレッチェ広島と比べ、著しく成功率が高くなっており、特徴的であった。

→考察1-①、1-②を経て、川崎フロンターレは、チームとして単純に様々な種類のパス数が多いだけでなく、そのパスの成功率も高い水準である。また、敵陣(ATやMT)でも、細かいパスを繋ぐことのできる高い技術を持っているチームだと考えられる。
→コートを中心に、前線に関わるプレーの中でパスが多いことから、川崎フロンターレのパスの特徴の鍵となっているプレーをしている選手がMFにいないのではないが。

【仮説1-③】 他のチームと比較し、川崎フロンターレはATやMTでパスの多いことがわかった。川崎フロンターレのチームとしての特徴に結びつくプレーをしている選手はMFの選手ではないが。

【分析1-③】 川崎フロンターレの分析1からわかった川崎フロンターレの特徴的なプレーのうち、パス合計、ショートパス、スルーパス、AT、MTへのパス、AT、MTでのパスに重点を置き、そのプレーの多い選手を調べる。2013年から2018年の川崎フロンターレの選手のデータ154人分から、それぞれのパス多さの上位10位を分析する。

それぞれの表の下に示した平均値はフィールドプレーヤーに絞るため、全ゴールキーパーの数値は除いたものである。

図20 パス合計数 上位10人

年	ポジション	選手名	パス合計
2015	MF	中村 憲剛	3238
2016	MF	中村 憲剛	3035
2017	MF	中村 憲剛	3033
2018	MF	中村 憲剛	2764
2019	MF	中村 憲剛	2682
2020	MF	中村 憲剛	2612
2021	MF	中村 憲剛	2536
2022	MF	中村 憲剛	2503
2023	MF	中村 憲剛	2453
2024	MF	中村 憲剛	2377

パス合計数平均値
川崎フロンターレ: 880 J1: 629

図21 MTへのパス 上位10人

年	ポジション	選手名	MTへのパス
2015	MF	エドゥアルド ネット	1772
2016	MF	中村 憲剛	1720
2017	MF	中村 憲剛	1717
2018	MF	中村 憲剛	1663
2019	MF	エドゥアルド ネット	1646
2020	MF	中村 憲剛	1633
2021	MF	中村 憲剛	1621
2022	MF	中村 憲剛	1551
2023	MF	中村 憲剛	1530
2024	MF	中村 憲剛	1489

MTへのパス数平均値
川崎フロンターレ: 485 J1: 332

図22 ATへのパス 上位10人

年	ポジション	選手名	ATへのパス
2015	MF	中村 憲剛	1139
2016	MF	中村 憲剛	1093
2017	MF	中村 憲剛	1069
2018	MF	中村 憲剛	1067
2019	MF	中村 憲剛	1010
2020	MF	中村 憲剛	992
2021	MF	中村 憲剛	938
2022	MF	中村 憲剛	782
2023	MF	中村 憲剛	729
2024	MF	中村 憲剛	679

ATへのパス数平均値
川崎フロンターレ: 267 J1: 202

図23 MTでのパス 上位10人

年	ポジション	選手名	MTでのパス
2015	MF	中村 憲剛	2112
2016	MF	中村 憲剛	2077
2017	MF	中村 憲剛	1989
2018	MF	中村 憲剛	1775
2019	MF	中村 憲剛	1741
2020	MF	中村 憲剛	1713
2021	MF	中村 憲剛	1660
2022	MF	中村 憲剛	1610
2023	MF	中村 憲剛	1574
2024	MF	中村 憲剛	1514

MTでのパス数平均値
川崎フロンターレ: 502 J1: 354

図24 ATでのパス数 上位10人

年	ポジション	選手名	ATでのパス
2015	MF	中村 憲剛	1918
2016	MF	中村 憲剛	1902
2017	MF	中村 憲剛	1807
2018	MF	中村 憲剛	1779
2019	MF	中村 憲剛	1763
2020	MF	中村 憲剛	1721
2021	MF	中村 憲剛	1621
2022	MF	中村 憲剛	1600
2023	MF	中村 憲剛	1581
2024	MF	中村 憲剛	1564

スルーパス数平均値
川崎フロンターレ: 582 J1: 354

図25 シュートパス数 上位10人

年	ポジション	選手名	シュートパス
2015	MF	中村 憲剛	1918
2016	MF	中村 憲剛	1902
2017	MF	中村 憲剛	1807
2018	MF	中村 憲剛	1779
2019	MF	中村 憲剛	1763
2020	MF	中村 憲剛	1721
2021	MF	中村 憲剛	1621
2022	MF	中村 憲剛	1600
2023	MF	中村 憲剛	1581
2024	MF	中村 憲剛	1564

シュートパス数平均値
川崎フロンターレ: 582 J1: 354

図26 スルーパス数 上位10人

年	ポジション	選手名	スルーパス
2015	MF	中村 憲剛	154
2016	MF	中村 憲剛	174
2017	MF	中村 憲剛	165
2018	MF	中村 憲剛	156
2019	MF	中村 憲剛	156
2020	MF	中村 憲剛	132
2021	MF	中村 憲剛	124
2022	MF	中村 憲剛	116
2023	MF	中村 憲剛	104
2024	MF	中村 憲剛	95

スルーパス数平均値
川崎フロンターレ: 29 J1: 20

【考察1-③】

→特徴のあるパスを出している選手はMFに多いことがわかった。
特に、MFの中村憲剛選手はパスの全てを表にも入っているそのパスの多さも飛び抜けているものが多いことから、中村憲剛選手が多くのポイントとなるパスを出している。他にも図20、21、22、23、25ではMF大島僚太選手、図22、24、26ではMF家長昭博選手も攻撃的なパスを多く出していることがわかることから、一人だけでなく、メンバーの多くがパスを回せることも川崎フロンターレのパスの特徴を形作っているものの一つであると考えられる。また、図22、24、26を見ると、MFだけでなく、DF、FWの選手も多くパスを出していることから、チームでパスを回すという意識が高いのではないが。
それぞれの図の下に示していたJ1平均値と川崎フロンターレ平均で比較しても、J1平均を遥かに超えているものがほとんどであることから、川崎フロンターレのパスの多さがここでもよくあらわれている。

【仮説2-③】 川崎フロンターレには、③ラストパスを出し、チャンスメイクをする選手、④しっかりと得点を取り切ることでできる選手共に多いからではないが。

【分析2-③】 ラストパス合計と(2-②で特徴のあった)ラストパスのうちのスルーパスの多い選手を3チームで比較する。チーム内で偏りがあるのかも調べるため、各選手の2013-2018までのデータの中で一番高かった値をそれぞれのチーム内(キーパーを除く)上位5人のパス数を比較する。平均値も出し、チーム単位でも分析する。

年	選手名	ポジション	ラストパス数
2013	中村 憲剛	MF	95
2014	中村 憲剛	MF	95
2015	中村 憲剛	MF	95
2016	中村 憲剛	MF	95
2017	中村 憲剛	MF	95
2018	中村 憲剛	MF	95
2019	中村 憲剛	MF	95
2020	中村 憲剛	MF	95
2021	中村 憲剛	MF	95
2022	中村 憲剛	MF	95
2023	中村 憲剛	MF	95
2024	中村 憲剛	MF	95

ラストパス数平均値
川崎フロンターレ: 95 J1: 62

年	選手名	ポジション	ラストパス数
2013	中村 憲剛	MF	67
2014	中村 憲剛	MF	67
2015	中村 憲剛	MF	67
2016	中村 憲剛	MF	67
2017	中村 憲剛	MF	67
2018	中村 憲剛	MF	67
2019	中村 憲剛	MF	67
2020	中村 憲剛	MF	67
2021	中村 憲剛	MF	67
2022	中村 憲剛	MF	67
2023	中村 憲剛	MF	67
2024	中村 憲剛	MF	67

ラストパス数平均値
川崎フロンターレ: 67 J1: 62

年	選手名	ポジション	ラストパス数
2013	中村 憲剛	MF	72
2014	中村 憲剛	MF	72
2015	中村 憲剛	MF	72
2016	中村 憲剛	MF	72
2017	中村 憲剛	MF	72
2018	中村 憲剛	MF	72
2019	中村 憲剛	MF	72
2020	中村 憲剛	MF	72
2021	中村 憲剛	MF	72
2022	中村 憲剛	MF	72